

.....

首なし馬と常夜燈^{じょうやとう}

.....



むかしむかし、土居田には北の小路（しょうじ）、中の小路、南の小路とよばれる三つの道があったんじゃ。その道の周りには、竹やぶがあちこちにあったそうなの。

北の小路は、今の土居田分館の裏あたりにあったんじゃ。北の小路には、草木も眠る真夜中になるとな、どこからか、チャン、チャン、チャンと音がしだしてなあ。パッカ、パッカ、パッカと、だんだん近づいて来るんよ。

チャン、チャン、チャン。

パッカ、パッカ、パッカ。

ひずめの音とともに、馬の姿が大きくなり、すぐそこまで来た。

チャン、チャン、チャン。

パッカ、パッカ、パッカ。

そして、目の前で止まった。

「う、わあ。な、な、なんと。く、く、首がない。首なし馬だあー。」

それを見たたん、

「あ、わあ、わあ。」

腰が抜けて、立てんかったんよ。どないしようと、思ったがなあ。

この首なし馬は、毎晩、毎晩出てきて、村人たちを苦しめとったんよ。困ったみんなは、村一番の物知りに相談しに行ったんだと。そしたらな、常夜燈を建て、三つの神様をまつり、毎晩灯りをともしてお祈りするようにと教えてくれたんと。

村人たちは、教えのとおり、常夜燈を建て、金毘羅さん、八幡さん、石鎚さんの、三つの神様をまつり、灯りをつけてお祈りしたんじゃと。すると、それから、首なし馬は、ぱったりと出なくなったそうなの。

今も土居田分館の前に、金毘羅さんの金、八幡さんの八、石鎚さんの石、と彫った常夜燈があるんよ。みんなも近くに行ったら見てね。わかったかなあ。これでお話はおしまい。

紙芝居「みんなでかたりつごう」（雄郡まちづくり協議会編 平成24年度制作）を、一部改作しました。